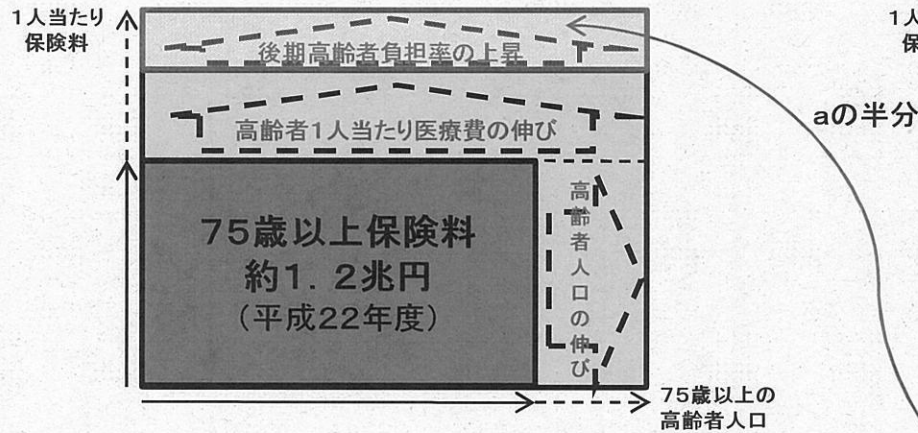


高齢者の保険料の負担率

○ 現行制度においては、現役世代(75歳未満)の負担の増加に配慮し、「現役世代人口の減少」による現役世代の保険料の増加分を75歳以上の高齢者と現役世代で折半し、高齢者の保険料の負担割合を段階的に引き上げる仕組みになっている。

高齢者の保険料・・・高齢者医療給付を賄うための保険料

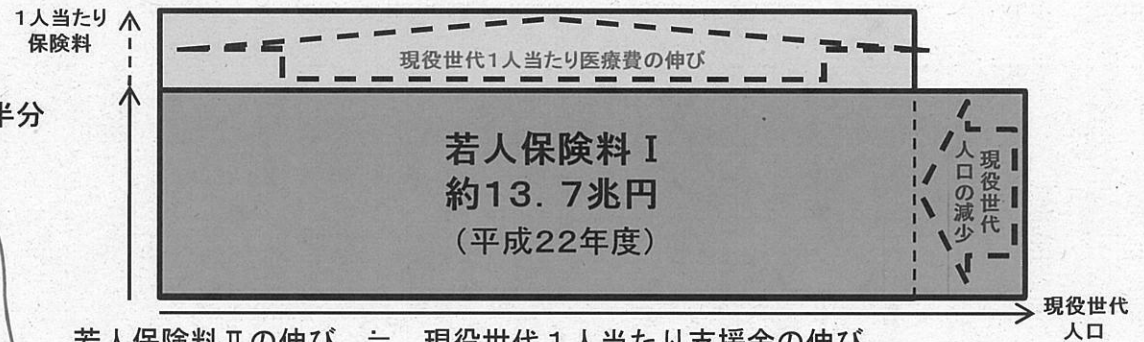
高齢者保険料の伸び \equiv 高齢者1人当たり医療費の伸び
+ 後期高齢者負担率の上昇



現役世代の保険料・・・若人保険料Ⅰ (若人医療給付を賄うための保険料)

+ 若人保険料Ⅱ (高齢者医療給付を支える保険料(支援金))

若人保険料Ⅰの伸び \equiv 現役世代1人当たり医療費の伸び



若人保険料Ⅱの伸び \equiv 現役世代1人当たり支援金の伸び
 \equiv 支援金総額の伸び + 現役世代人口の減少率
 \equiv 高齢者1人当たり医療費の伸び
 \quad + 高齢者人口の伸び + 現役世代人口の減少率
 \quad - 後期高齢者負担率の上昇による支援金の減少分



※ 後期高齢者負担率 = 10% + 平成20年度の現役世代負担割合(約4割)
 \times 平成20年度から改定年度までの現役世代人口の減少率 $\times 1/2$

※ 支援金総額は、公費分含めて約5.0兆円